



小谷地区を流れる布田川。春ともなると川岸の木々には若葉が芽吹きます

ちよつとそんままで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

県道熊本高森線を西原村へと向かう手前の、北方に段々に広がる集落が小谷地区おやつです。今回で2度目となる散歩では、悲しみを乗り越えて明るく暮らす家族や、再会の笑顔が待っていました。

家族亡くした 悲しみ乗り越えて

小谷と書いて「おやつ」と呼ぶ小谷地区。布田川沿いの低地に入り込んだ、小さな谷に位置するたために付けられた地名だと思われませんが、珍しい呼び名については今のところ不明だそうです。
小谷地区は小高い尾根を境に上小谷と下小谷に分かれています。くねくねと続く細い路地に漂う風



段々と連なる小谷集落の家々



集落のつじに猿田彦の石碑が祭られています



情には、穏やかに営まれてきた集落の温度を感じます。つじには、「みちひらきの大徳」で交通の神様としてあがめられている猿田彦の石碑が祭られてあり、ここが阿蘇方面とをつなぐ重要なバイパスであったことが推察されます。
上小谷の高台に暮らす丸山まるやま一義かずよしさんに出会いました。丸山さんは一年を通じてピーマンを栽培しています。1200坪の畑に広がる大きなビニールハウスでは、次々とピーマンが成長しており、畑の中を小走りで走り回る丸山さんは、70代後半とは思えないほどパワフルです。「なーん、こがんとるばつてん、去年の元日に庭の木ば剪定せんていしよつたら妙なところばひねつてケガして、完治に半年かかつてね。正月からがまだすもんじやなか」と笑います。

そんな丸山さんの畑の一角には花々も咲いていました。「亡くなった両親や妻、息子に手向ける花を植えてね。仏壇の花を切らしたことはなかつたね」と話す丸山



ビニールハウスの脇には、仏壇に供える花々が植えられています



「毎日、ピーマンの成長を見るのが楽しみ」と話す丸山さん